

日商簿記検定 2 級講座

工業簿記

【第7回】

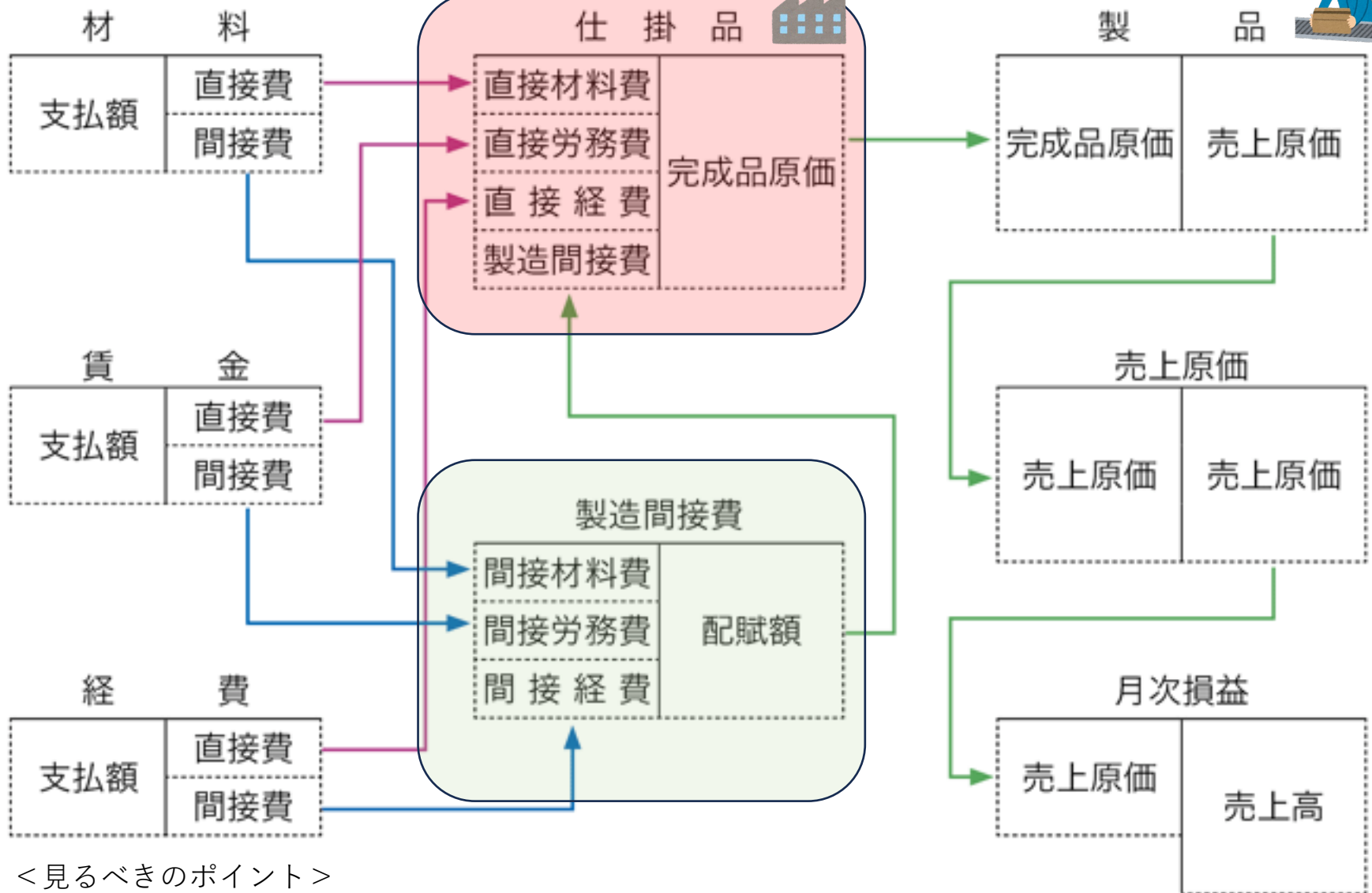
個別原価計算Ⅱ

第6回講義の内容

テーマ09	個別原価計算Ⅱ	76ページ
-------	---------	-------



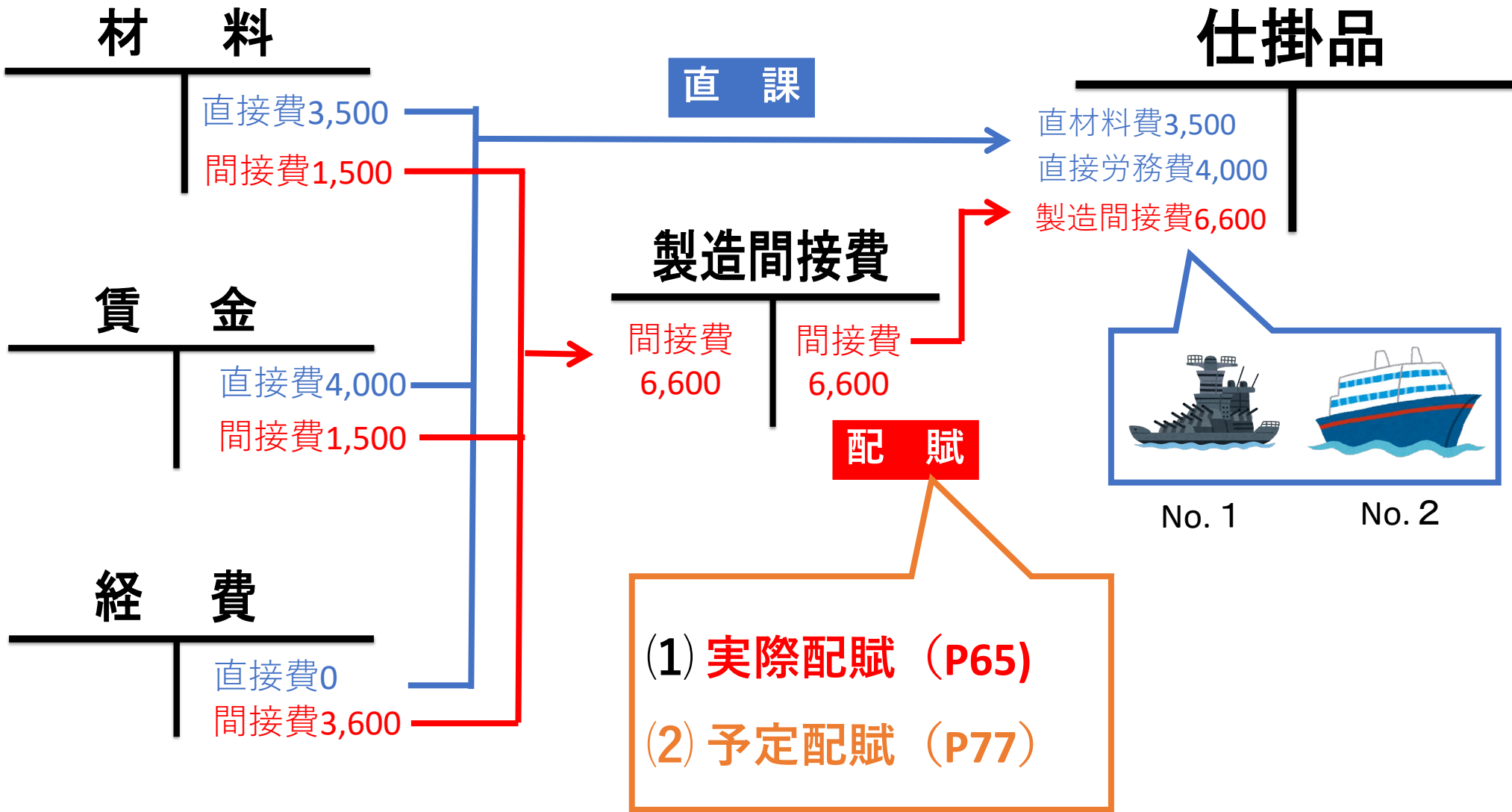
「勘定連絡図」(P63)を確認してください。



<見るべきのポイント>

- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を經由して配賦される。

1. 製造間接費の予定配賦 (P 76)



実際配賦の問題点

<設例8-1～8-2>

当社は造船会社である。各資料に基づいて①原価計算表を作成するとともに、②仕訳と勘定記入を行いなさい。

(1) 2隻の船の建造を受注し、下記の製造指図書を発行した。



製造指図書No. 1
戦艦大和

製造指図書No. 2
タイタニック号



(2) 各費目における指図書別の消費額の計算結果は次のとおりである。

	No. 1	No. 2	2隻に共通	合計額 (単位: 円)
材料の当月消費額	2,000	1,500	1,500	5,000
賃金の当月消費額	2,000	2,000	?	?
経費の当月消費額			3,600	3,600

(3) 間接労務費について、**間接作業時間の把握と集計に手間取っている。**

(4) 製造間接費に集計された金額は、工場全体で「?円」であった。これを各製品の機械運転時間配賦基準として各製造指図書に「**実際**」配賦する。

(5) 機械運転時間は、製造指図書No. 1 に対して6時間、No. 2 に対して5時間であった。

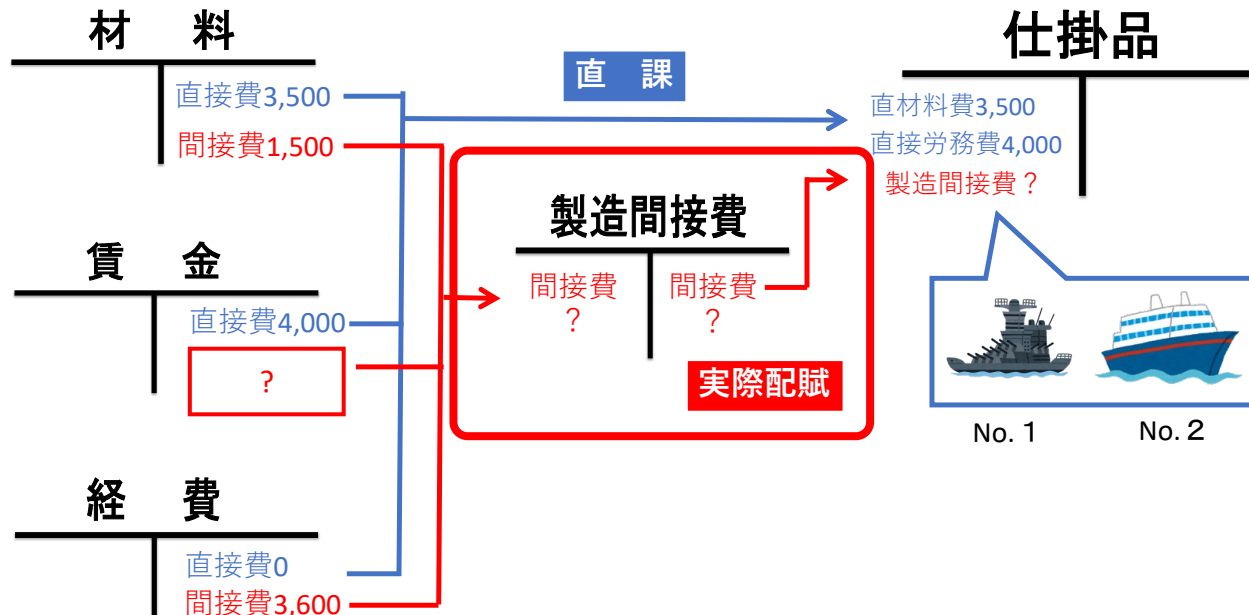
1.原価計算表を使って原価の計算をする

原価計算表 (単位：万円)			
	No.1 (大和)	No.2 (タイタニック)	合計
①直接材料費			
②直接労務費			
③製造間接費	40	60	
合計			

(計算の方法)

直 課
直 課
配 賦

2. 総勘定元帳への転記



予定配賦をする場合（P78）

< 設例9-1 >

当社は造船会社である。各資料に基づいて①原価計算表を作成するとともに、②仕訳と勘定記入を行いなさい。なお、当社は2隻の船の建造を受注し、下記の製造指図書を発行した。



製造指図書No. 1
戦艦大和

製造指図書No. 2
タイタニック号



- (1) 年度始めに、工場の1年間における予定機械運転時間を144時間と見積、そのもとで発生が見込まれる予定製造間接費を72,000円と見積もった。
- (2) 製造間接費は各製品の機械運転時間を配賦基準として「**予定**」配賦する。
機械運転時間は、製造指図書No. 1に対して6時間、No. 2に対して5時間であった。
- (3) 各費目における指図書別の実際消費額の計算結果は次のとおりである。

	No. 1	No. 2	2隻に共通	合計額（単位：円）
材料の当月消費額	2,000	1,500	1,500	5,000
賃金の当月消費額	2,000	2,000	1,500	5,500
経費の当月消費額			3,600	3,600

- (4) 製造間接費の予定配賦額と実際発生額との差額を製造間接費配賦差異勘定へ振替える。
- (5) 製造間接費配賦差異勘定は、年度末に売上原価勘定へと振替得た。

1 原価計算表（原価の計算）→個別原価計算

（単位：円）

	No. 1	No. 2	合 計
直 接 材 料 費			
直 接 労 務 費			
製 造 間 接 費			
合 計			
機械運転時間	時間	時間	

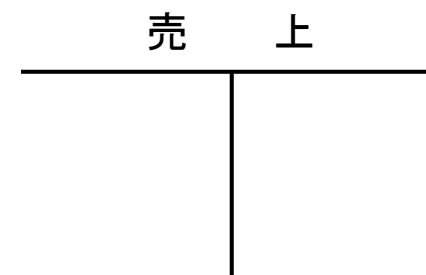
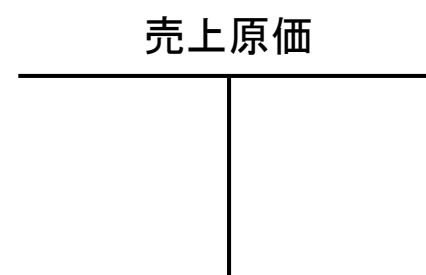
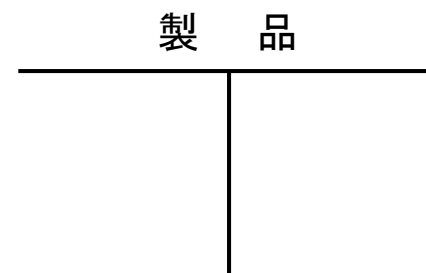
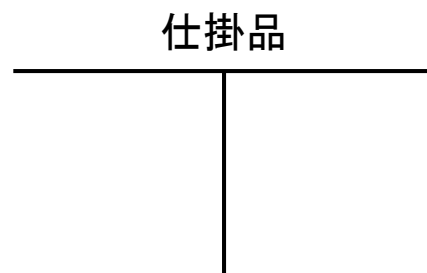
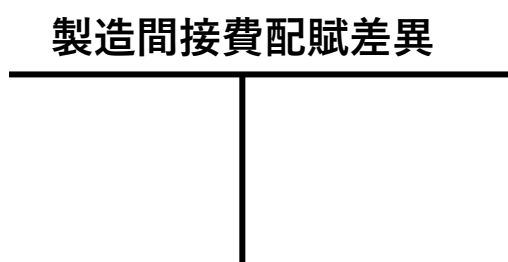
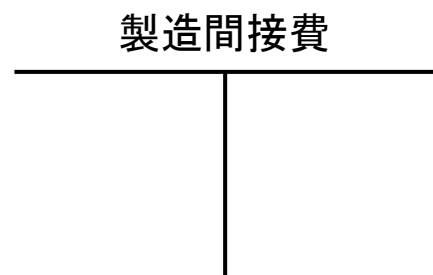
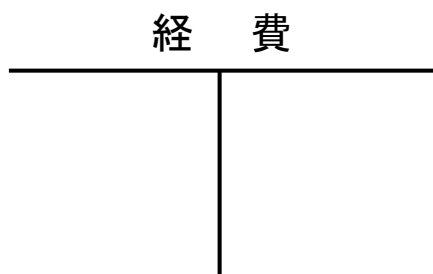
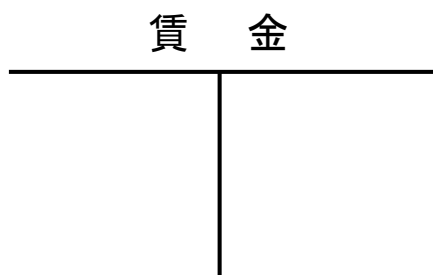
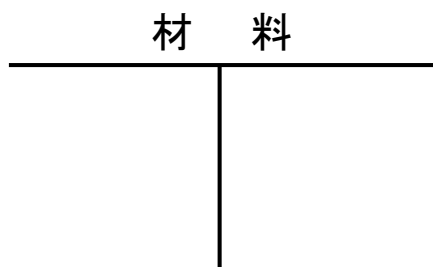
予定配賦率＝ 円/時間

2 勘定記入（仕訳帳）

(2)	仕 掛 品		製 造 間 接 費	
(3)-1 直接費	仕 掛 品		材 料 賃 金	
(3)-2 間接費	製 造 間 接 費		材 料 賃 金 経 費	
(4)	製造間接費配賦差異		製 造 間 接 費	
完成品	製 品		仕 掛 品	
販売	売 上 原 価		製 品	
(5)	売 上 原 価		製造間接費配賦差異	

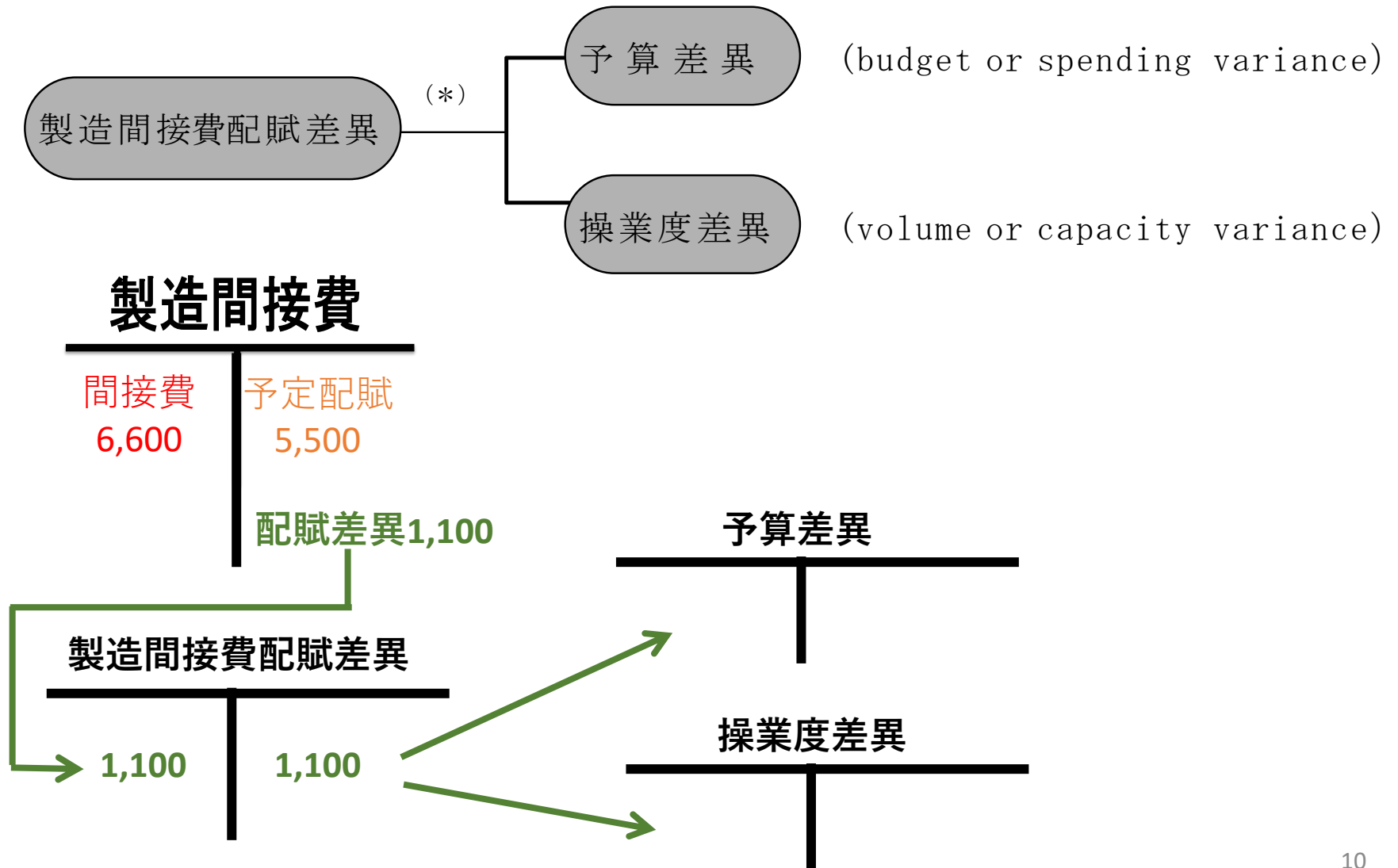
(2) 総勘定元帳への転記

< 勘定連絡図 >

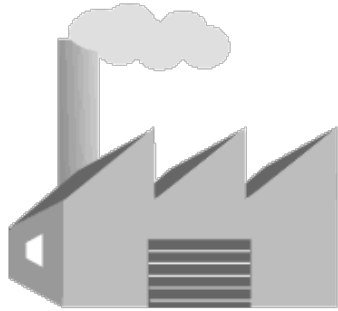


2 製造間接費配賦差異の分析 (P 83)

製造間接費配賦差異の中身について (P 86)



「予算」ってなんだろう？ 予算管理と物量管理の違いについて



工場建物の減価償却費
(間接経費)



物量管理

製品 1 個につき
何キログラムまで
何時間まで



直接材料費



直接労務費



間接労務費

間接費は物量管理は
できない。このため
予算による金額管理
をおこなう。

予算管理



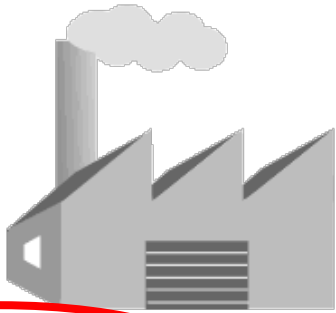
予算という器で管理する

「製造間接費」とはどんなものか？

狭義の原価	形態別分類	製品との関連における分類	間接費の具体例
製造原価	①材料費	直接材料費	
		間接材料費	消耗品費 (グリス・やすり)
	②労務費	直接労務費	
		間接労務費	工場事務員の給料 工場長の給料
	③経費	直接経費	
		間接経費	工場建物の減価償却費 工場の水道光熱費



3 基準操業度 (P 84)



予定配賦率 =

$$\frac{\text{予算額} \quad \text{円}}{\text{基準操業度} \quad \text{時間}}$$



144時間稼働させたとき
製造間接費は72,000と見積もる

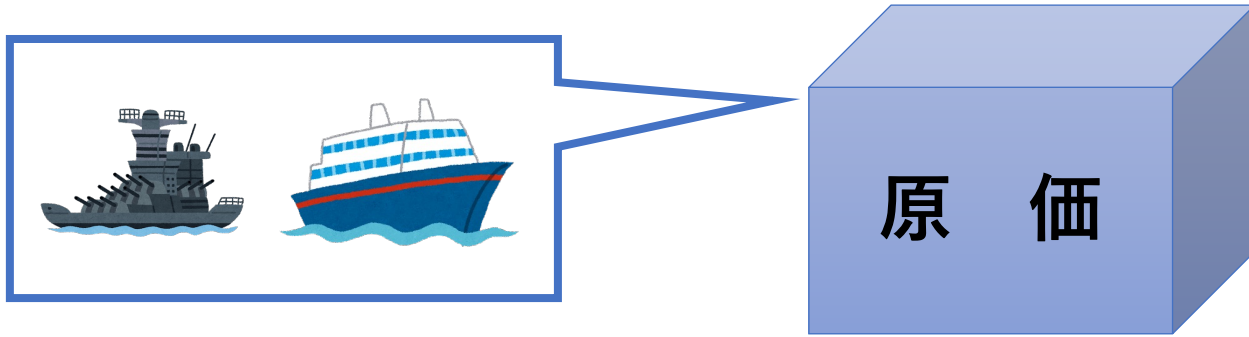
基準操業度
→ 1年間の正常生産量
を見積もることで決定
(期待実際操業度)

基準操業度	① 実際の生産能力 180時間	② 期待実際操業度 144時間
予算額	79,200円	72,000円
予定配賦率		

< 基準操業度にはいくつかある >

- ・ 理論的生産能力 → 理論的に計算できる最大操業度
- ・ 平均操業度 → 3 ~ 5年の平均操業度

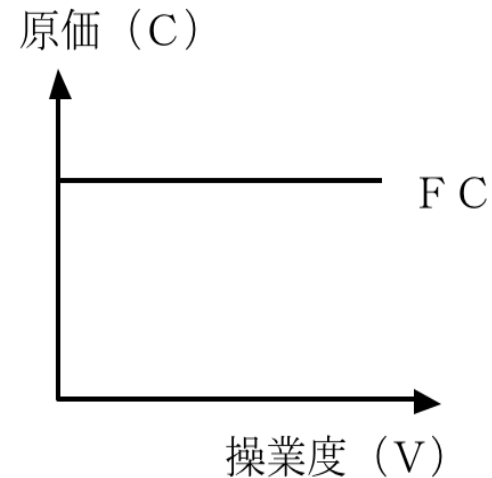
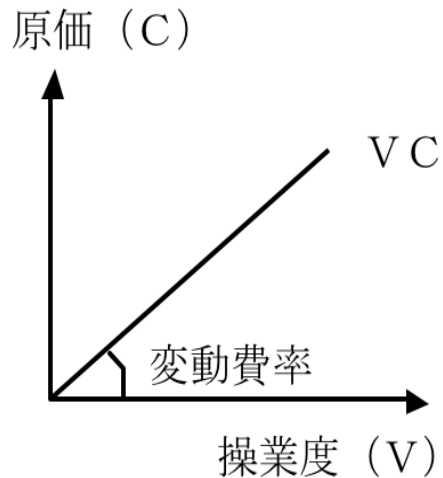
4 製造間接費予算 (P 86) 操業度と原価の関係 (P83)



原価は「**変動費**」と「**固定費**」に分けることができる

操業度との関連に
おける分類

- 変動費 (V C : Variable Cost)
- 固定費 (F C : Fixed Cost)



間接費は物量管理は
できない。このため
予算による金額管理
をおこなう。

予算管理

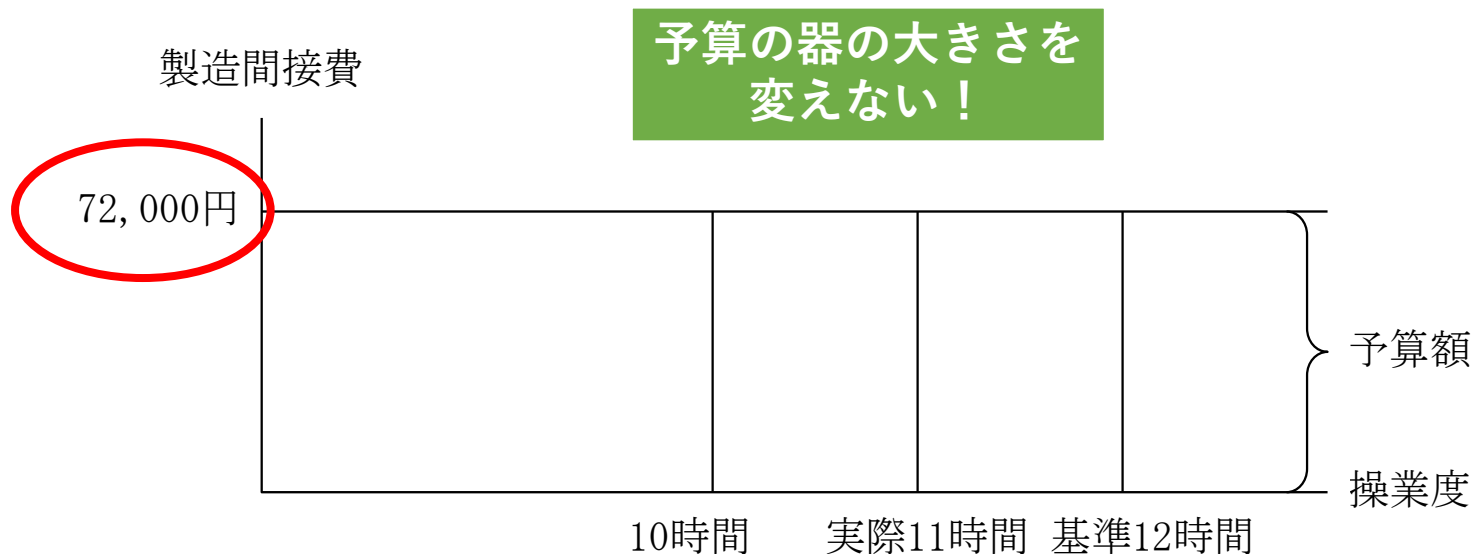


予算という器で管理する

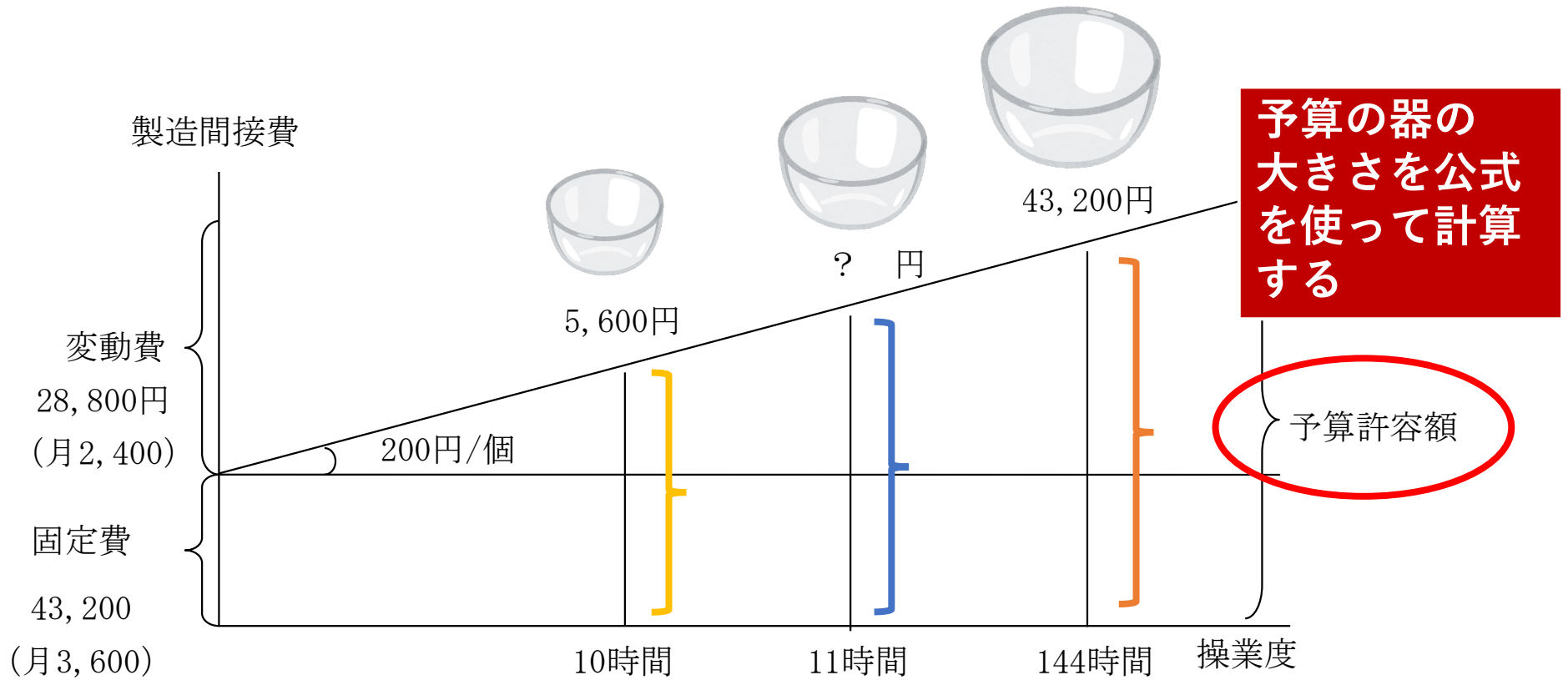
- (1) 変動予算
→公式法変動予算 (P86)
- (2) 固定予算 (P88)

2. 固定予算の差異分析 (P80)

【固定予算】 P89



1.公式法変動予算の差異分析 (P78)



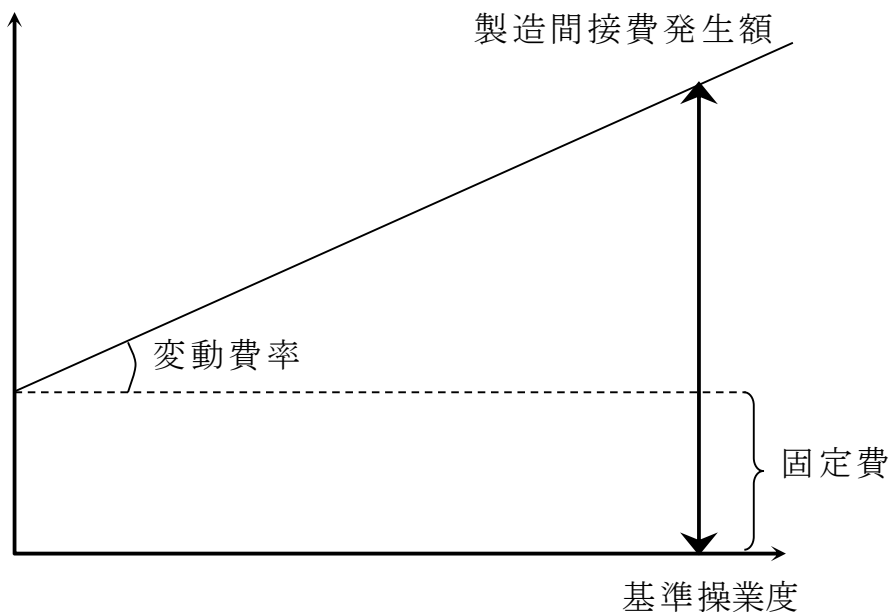
器の大きさの計算方法
(予算許容額)

$$\text{変動費} + \text{固定費} = \text{予算許容額}$$

(変動費率 × 実際操業度)

[設例9-4] 固定予算と配賦差異の分析 (P80)

(1) 年間予算データ	基準操業度	②期待実際操業度 (年ベース) 144時間	予定配賦率
	予算額	公式法変動予算による製造間接費予算 (年ベース) 72,000円 内訳：変動費率200円/時間 + 固定費43,200円	
(2)実績データ (月ベース)	実際操業度	実際機械運転時間11時間	
	実際発生額	製造間接費実際発生額6,600円 (間接材料費 + 間接労務費 + 間接経費)	



P78をもとに差異の「分析図」
を書いてみてください。

(2) 総勘定元帳への転記

< 勘定連絡図 >

